

災害時の避難所設置研修

学校全体で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身につけたり、主体的に集団や社会に参画するなどの資質・能力を育成することを目指した取り組みが学校行事です。

昨日（10月29日）は「防災講話・災害時の避難所設置訓練」を実施しました。防災講話などは、学校行事の中でも健康安全・体育的行事に位置づけられており、今回の防災講話のねらいは、

- ①生徒自らが身の回りの危険を予測・回避し安全な生活に対する理解を深めること。
- ②事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得。
- ③自己の生活を振り返り、防災に関する課題と解決策について考え、他者と協力して適切に判断し行動することができるようにすること。」

です。例年、防災教育については、避難訓練を実施して終わっていたのですが、今年初めてこのような避難所の設営に関わる防災教育を計画し、実施しました。

大田市危機管理課の担当の方から大田市防災計画の説明を聞き、本校の体育館が避難所になった想定で簡易テントや間仕切り板などの組み立て・設置を行い、現実となったときに適切に対応できるように体験しました。

実施後に報道の方からインタビューを受けた生徒からは、「思っていた以上に難しかった。声をかけながら協力できてよかった。」とか、「周囲と協力しなければ組み立ては難しく、大変だと分かった。もし災害が起きれば、邇摩高生が率先して地域の皆さんをサポートできたらいい。」といった感想を述べていました。

もちろん、災害は起きないことがいいのですが、発生したときに私たちがどのような行動をとるのか？ということは、あらかじめ想定し、自分ができることを準備しておくことが必要なのだろうと思います。このような研修を通して、万が一の時本校生徒がボランティアとして地域の皆さんの支援ができるようになるといいと感じました。



放課後は、教職員研修として同様の体験を実施しました。災害時には本校が避難所となっているため、教員も災害時の仮設テント等の開設等を楽しみながら体験していました。

テントなどは簡単に組み立てることができるのですが、片付けに四苦八苦しながら研修を終えました。

